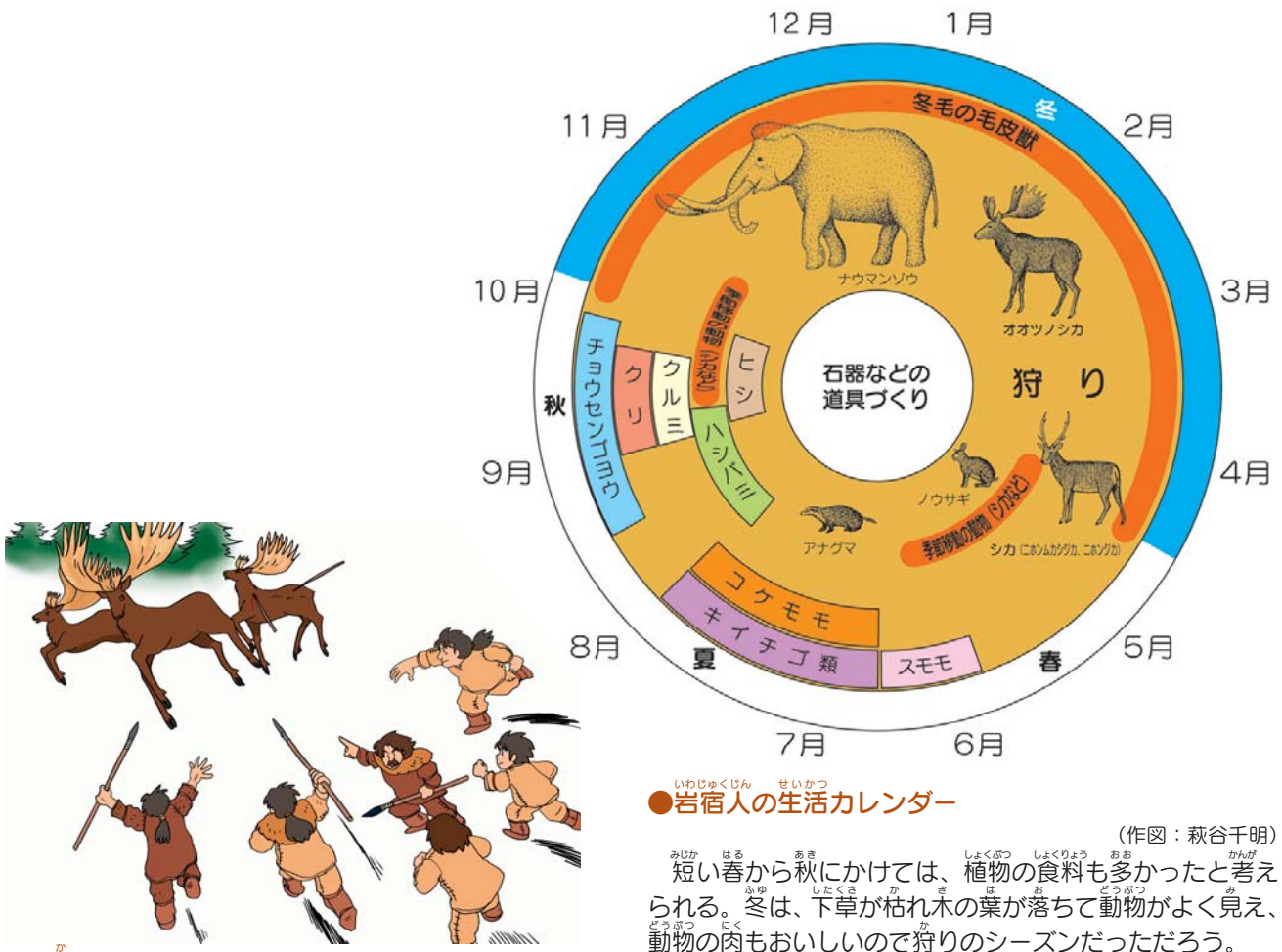


IV 岩宿人の生活

IV-① どんな生活をしていたのだろうか？

岩宿（旧石器）時代では、野山にいる動物を捕って食べる狩りを中心とした生活であったと考えられています。そのほかにも木の実や果物、球根や新芽などの植物も食べていたものと考えられます。しかし、自分たちで動物を飼い、植物を育てることはなかったであろうと考えられています。次の縄文時代には、犬を飼っていたり、植物の栽培が行われていたりしていたことがわかっています。そして、約2300年前からの弥生時代になると水田で米作りが行われ、農業を中心として生計を立てる社会になっていきました。最も古い岩宿（旧石器）時代の生活は、狩りの生活で原始的だと考えられますが、決して無計画であったわけではありません。植物の実のなる時期、新芽の出る時期は限られていますし、動物を狩りする時期や場所もある程度決まっていたはずで、当時の人々は、1年間の気候や動植物の状況に合わせたカレンダーをもって生活していたことでしょう。



●狩りのようす
(イラスト: さかいひろこ氏)

●岩宿人の生活カレンダー
(作図: 萩谷千明)
短い春から秋にかけては、植物の食料も多かったと考えられる。冬は、下草が枯れ木の葉が落ちて動物がよく見え、動物の肉もおいしいので狩りのシーズンだっただろう。